



ふらり らいふらりい



～図書室にはこんな本があります～

No. 163

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問)「松根油(しょうこんゆ)」の使用目的と製造方法が知りたい。

答)「松根油」で図書を検索してみましょう。

図書 → ことばから調べる → 松根油 → 46件該当

『アサヒグラフに見る昭和の世相 5』(210.7/A82/5 閉架)

昭和20年2月14日号「燃え上る松根油増産熱」。写真・図版あり。

『「戦前・戦中」用語ものしり物語』(210.75/Ki68 開架)

使用目的、製造法を簡単に説明。図版あり。

『日本海軍燃料史 上』(397.21/N64/1 閉架)

松根油の乾留法、精製法等の説明。装置の見取図付き。

『陸軍燃料廠』(396/175 閉架)

松根油の生産量の表あり。

『航空技術の全貌 下』(538/Ko47/2 閉架)

今回は使用目的と製造法に関する資料を紹介しましたが、検索結果46件には、当時、原料となる松根を掘る作業をした人たちの手記も検索結果に含まれています。ご興味のある方はそちらもどうぞ。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

お年玉の由来



新しい年が始まります。皆様にとって良い年になりますように。お正月といえばお年玉。今回は、その「お年玉」の由来についての記事をご紹介します。

お年玉

子どもにとってのお正月の楽しみは、なんといってもお年玉でしょう。現在は、正月に親や親戚の人から子どもに与えられる金銭をお年玉とよんでいます。もともとは、神前に供えた丸もち(丸い石というところもある)を参詣人さんけいじんに分け与えたものを年玉といい、大晦日の夜に年神さまが年玉を配って歩くという言い伝えのある地方が多いことから、神からの分配品すなわち“神人共食”しんじんきょうしょくの意味があったのでしよう。その後分家をした人が新年に両親を訪ね、健康を祝福してもちを贈るようになり、それがしだいに、親や親戚の人が子どもたちの健やかな成長を願って贈る丸い形のもちをさすようになりました。

また、江戸時代には、商家の主人が年少の奉公人にもちの代わりに金銭を与えることから始まり、小さなのし袋のしぶくろに金銭を入れて、親から子どもへ、あるいは目上の者から目下の者へ渡すことが習わしとなったようです。

お年玉は金銭のほかに、たこ 凧 や こま 独楽、はこいた 羽子板 などが贈られたようです。



『子どもに伝えたい年中行事・記念日』(386/H81)より
開架児童書棚

—図書室から—

戦前～戦後の「お正月」と「雛まつり」

平成26年1月5日(日)～3月9日(日)まで、戦前～戦後の「お正月」と「雛まつり」をテーマとして、昭和館1階 資料公開コーナーにて雑誌の表紙など展示します。ぜひご覧ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 163

2013年12月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1